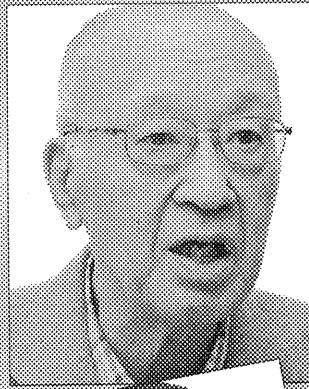


# 日本は どこで 間違えたか

—もう一つの日本は可能だつたか—

大アンケート

低迷をまねいた  
分岐点はいつか。  
識者30人が歴史を鋭く抉る



「承詔必謹」の深意  
を忘れた日本人  
—1945年

田中康夫  
(衆議院議員・新国民党代表)

「承詔必謹」は、敗戦で変容しました。それが日本の転機でした。

「詔を承けては必ず謹め」。「天皇の詔勅が下つたなら、必ず謹んで承らねばならぬ」。聖徳太子が十七条憲法の第三条に記した「承詔必謹」です。

が、大日本帝国憲法に引き継がれた「承詔必謹」は、「承る」+「拝聴する」の意味合いを何時の間にか捨て去り、「天皇の命を受けたら必ずそれに従え」と“拡大解釈”されるに至ります。それぞ正訳、と唱える向きも居られましょ。けれども、虎の威を借り



田中康夫  
(衆議院議員・新国民党代表)

狐の如き輩が跳梁跋扈する中で市井の人へ届いた「赤紙」の悲劇は、昭和天皇の意でも命でもなかつたのです。天皇の詔勅は「終戦の詔勅」を以て途絶え、ダグラス・マッカーサーなる御仁との写真が公開されるに至り、「承詔必謹」を発するのは占領国アメリカであると信じて疑わぬ“歪な独立国”的道を、日本は歩み始めます。而して小村壽太郎翁らの努力の末、関税自主権回復から丁度100年後の2011年、国家の根幹たる関税自主権を自ら放棄し、壊す国「壊国」へと猪突猛進する日本政府を、洞察力に欠ける護送船団・記者クラブは後押します。大本営発表と称して無批判に好戦論を垂れ流した先の大戦時と同じく。

農業・医療・金融・保険に留まらず製造業、サービス分野に深刻な悪影響を与えるTPPとは、日本人から仕事と生活を奪い去り、更には日本とアジアを分断するTotal Poison Program

●完全毒薬構想にも拘らず……。

夫婦でも親子でも恋人でも、相方が歩むべき道を見失つてゐる時には「正心誠意」、道理を説いてこそ眞のパートナー。それは外交に於いても同様です。日本的慎み深さとしての「承詔必謹」の深意を忘れ、アメリカに対する盲目的な「承詔必従」と取り違えて恬として恥じぬ“名譽白人”を自任する面々には、凡そ理解を超えた慨嘆でしょうが。